



自分の命はしっかり守る立花北の子！

雨が降りしきる中、「なんで警報出えへんの～？」と叫びながらも、立花北の子ども達は元気に学校へやってきました。実にたくましい子どもたちです。他校では最近、雨になると学校まで車で送ってもらう子も少なくないそうです。雨の中、車や自転車にも気をつけながら安全に歩くことは大事な経験。立花北の子どもたちは素晴らしいです！



ところで、天気予報で兵庫県が真っ赤に染まっても、尼崎だけが白い（つまり警報が出ない）というのは今に始まったことではありません。これは、尼崎に土砂災害を引き起こす山がないこと、そして市内の至る所に高性能なポンプ施設（大雨が降った際、素早く雨水を海や川へ放流し、街を浸水から守るシステム）が備わっていること、さらには武庫川や猪名川上流のダム施設が、放流する水量を見事に調整して下流域を水害から守っていること…等が理由です。尼崎の街ってスゴイですね。しかしながら、一時的なゲリラ豪雨等の場合は、小さな溝や用水路の水量が一気に上がることがあります。そんな時は、保護者の判断で家庭へ留め置くなどしていただけて結構です。何より将来的には、子どもたち自身が自分の目で見て頭で考え、安全な行動をとることができる力を身につけてほしいと思います。

カラーロードのプランターを耕していると、「校長せんせ～！雨やんだから外で遊べるようにしてください！」と背後（校舎の窓）から声をかけられます。体育の先生が放送を入れると、一斉に運動場へ駆け出してくる子どもたち。ビックリするほど水はけがよいグラウンドに恵まれている子どもたちは幸せです。畑では、たっぷりの雨に恵まれて、ひまわり学級の子どもたちが植えた落花生やサツマイモが、今年も元気に育ってきました。



コロナ禍で水泳が禁止された3年間、全国的にも水を怖がる子どもが増えています。そこで立花北では、力を抜いて水に浮かんだり、水の中でブクブクと息をはきながらプールの底に沈んだり…と、子どもの命を守る水泳指導に取り組んでいます。今年も夏休み（7/22～26の5日間）の水泳指導を実施します。貴重な機会ですので、暑さで中止にならないよう、用務員さんたちがプールに手づくりの遮光シート（まさに職人の技）を張ってくださいました。苦手な子も、ぜひ参加してほしいと思います。



加えて、夏は不審者情報が増える季節です。万が一、子どもが怖い目にあった場合、迷わず110番通報してください。また、学校登校時は、露出度をおさえた服装をさせるなど、ご配慮をお願いします。

校長 佐野 正信